

(様式1)

学校番号 (小・中 4)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(東小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ①「挨拶」と「落ち着いた生活」は重点項目として、継続して具体策を検討する。
- ② 学校評価の結果から教職員と児童・保護者の意識に差があるので、そのギャップを解消するための具体策を検討し、実施の方向性を見つける。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ よくできた できた あまりできなかった できなかった

(理由)

- ・学校の基本方針を受け、それぞれの立場で意見が述べられ、学校と家庭の連携や、学校での取り組みに等について熟議をすることができた。また、子供たちの実態や課題についての理解を深めることができた。
- ・学校評価を受け、「目標・課題の説明」に対しての意見交換をしながら、課題に対して具体的な方策についても熟議をすることができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ よくできた できた あまりできなかった できなかった

(理由)

- ・学校運営協議会で熟議した内容を学校運営に反映された。参観会の在り方について話題となったが、参観時間を5時間目のみから、午前中の参観も可能とする方法に変更して実施した。
- ・毎月11日を東小あいさつの日として位置づけ、継続して実施している。どのように子供たちへの声掛け等、支援の在り方について熟議することができた。
- ・多くの地域の方が教育活動に参画しているが、加えてCDの尽力によりミシンボランティアが充実した。地域の人々からの支援、協力により、子供たち自身にも集団の一員であるという自覚が芽生えているように感じる。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ 充分に行った 行った あまり行わなかった 行わなかった

(理由)

- ・コミュニティ・スクールだよりの発行や東小HP等で熟議の内容を十分に発信している。また、校外掲示板にランドデザイン等を掲示し、地域の人々が誰でも見ることができるようにしてあることが東小の特色でもある。
- ・十分な情報を発信しているといえるが、地域の人々が学校運営に関わる仕組みがあることやその取組をより知ってもらう手立てを考えていく必要もある。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ①「挨拶」と「落ち着いた生活」は重点項目として、継続して具体策を検討する。
- ② 学校教育目標の具現化のため具体策を検討し、学校支援CDへの活動へとつないだり、学校全体の取組として実施したりできるようにする。